

春の山毛櫟沢山

大竹 尚子

- 山行年月日：平成 30 年 3 月 24 日
～25 日
- メンバー：斎藤美和子 大竹尚子

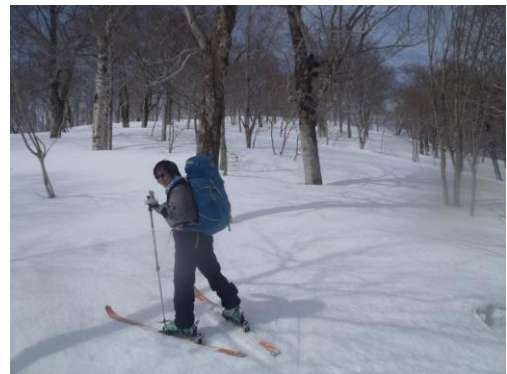
山毛櫟沢山は雪庇が発達した山で、北西の季節風の強さが予想できる。冬の間に、その季節風にあのブナの大木はギシギシと鳴って耐えているのだろうか？その山毛櫟沢山に南面の山毛櫟沢～コゴミ沢からアプローチして登ってみようと山行を計画した。

放射冷却で消えこんだ小立岩を出発。雪はカリカリなので一応アイゼンを持つ。懐かしい安越又林道をスキーで順調に進むが、水害の改修工事のため新しい道がつけられている。橋を渡り、作業小屋で一本。日差しも強く、雪もざけてきた。初めての山毛櫟沢に入っていく。このところの暖かきで雪解けは進み、沢は流れが出ている。ところどころデブリに埋められているのでそれをさけて、斜面の上部をトラバースするのがちょっと怖い。かすかに林道の跡もあるが、水害の影響かズタズタになっている。水流が出ていて渡るしかないところは、スキーを投げてツボ足で行こうとしたが雪が崩れて流れにボチャン。苦労しながらやっと、コゴミ沢と本沢の分岐に到着する。大休止。

この先のコゴミ沢にもデブリが見えたので、ツボ足で 50m くらい左岸尾根に登り、傾斜が緩くなったところでスキ

ーをつける。熱いくらいの天気の中、ゆっくりと山毛櫟沢山の稜線を眺めながら 1285m のピークに辿り着く。ここで南東からの尾根に合流し、少し下ると緩やかな斜面の尾根になる。素晴らしいブナの斜面である。稜線にもいいテント場があるのだが、1386m の台地まで登ったところに「ここに泊まってください。」という、素敵で平地があったのでテントを張った。

25 日も好天という予報だったが、テントを開けてみると雲が多く風も強い。



穏やかな稜線のブナ

稜線までテントを上げなくて正解だったかも。雪は少しカリカリで心配したが、シールで登っていける。稜線に出るとさらに風が強く、早々に山毛櫟沢山をピストンする。初めの予定では、西側の斜面に滑り込むわけだったが藪も出ているのであっさりパス。稜線に戻って今度は、小手沢山を目指す。50 周年記念の山行の時はこの稜線を恵羅窪山まで往復したのだが、この小手沢山の山頂を通らず山腹をトラバースして恵羅窪山

へ向かった。50周年山行で泊まったテント場を探しながら、ゆったり稜線を進む。ブナの木々を見上げていると不思議な安心感がある。やがて、見覚えのあるダケカンバの木が現れると小手沢山の山頂である。初めての美和子さんは感激している。それに合わせて天候も回復し、あっという間に青空が広がってきた。最高の登山日和である。

下るころには雪も適当に落ちて快適にテント場まで戻った。テントを小枝に結

び付けて行ったのだが、その小枝は枯れ枝で危うく飛ばされそうになっていた。ゆっくりお茶と沸かして昼食をとる。

さて、下りは小立岩の集落を目指し南東に伸びる尾根を滑り、途中から南に進路を変え出発地点を目指して下った。南斜面なのでなおさら雪は無くなり、苦労して降りてきた。天候に恵まれた2日間だった。

